



<http://www.yokohama-tawawa.jp>

特定非営利活動法人

地域で生きる障害者を支える会

住所：〒223-0064

横浜市港北区下田町 6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991



年々、自然の表情は厳しく、  
災害は強烈になってきています

## 危機対策の見直しと備えを！

このところ気候の挨拶も「やっと秋らしくなりますね」と、期待半分ですが、ホッとした感じになってきました。

とはいえ、先日の台風の被害は、第一報からの想定をはるかに超え、日に日に知らされる甚大な被害。長期停電の影響もどれほど大変な事かと思うと、困難な生活を強いられる皆さんにお見舞いの言葉もみあたりません。

\* \* \*

私たちの事を振り返れば、障害児・者を抱えての生活や、地域で共に暮らすグループホームでの生活の上で、危機管理の事は、常に考えてきたものの、自然災害時の対応については、さらに広く仲間や各方面との連携が欠かせず、“多忙”な中でつい中途半端になってはいないか、反省させられます。

完ぺきということは、難しいのですが、これまで断片的に、考えてきたことを整理し、被災された方たちの困難にも、我がこととして思いだけでも寄り添う中で、今一度、いろいろなケースを学び話し合って詰めていく必要があると思います。

また、多くの家庭でも家族の高齢化が進み、当たり前のことながら、障害者だけでなく私たちの生活スタイルも変化している状況も考慮に入れていかねばなりません。

防災備蓄一つをとっても、『3日分を』と書いていた以前の掛け声では安心できず、生活用品や医療の薬の備えなど、いわゆる常識も少しずつ変化（進化？）をしています。

出来れば地域で行われる、防災訓練にも参加してみると地域の備えや、構成員の様子なども解り障害者の場合は、どのような配慮をしてほしいのかを理解してもらう機会にもなると思います。

私たちとしては、まずはこれまで計画のままで終わってきた研修への第一歩を進めたいと思っています。そして常に検討、確認していくことが必要なのではないのでしょうか。

そして何より、『助け合いや連携』も普段からの取り組み、心がけや、交流があってこそ非常時に生きるのではないかと思います。

これも、“自分の子供”だけではなく、“自分たちの子供たち”を考えようとして努力を重ねてきた、私たち「支える会」の生き方に似ているのではないのでしょうか……。

### 『支える会』の主な活動

(含・会長、担当者出席関連会議)

※毎週月曜日は、支える会家族会の活動日

- 8月21日 区社協セイフティーネット役員会
- 24日 GH よつばホーム事務局会議
- 26日 活動ホームしもだ事業会議
- 9月5～6日 活動ホームしもだのよつばグループ旅行（支援）
- 6日 ヘルパー事業所との懇談
- 11日 GH 職員会議
- 19日 しもだ大掃除
- 20日 区社協セイフティーネット定例会
- 21日 GH 事務局会議
- 24日 GH よつばホーム家族会
- 27日 しもだ事業会議

### お知らせ

10月29日（火）横浜市防災センターの見学・研修会をおこないます。  
参加希望者はご連絡ください。

# 地域に暮らす障害者たち

—グループホーム入居者122,670人を超える—(1919.5)

始めは、入居者の障害の重さからとても心配された「よつばホーム」でしたが、2000年に試行事業を始めてから、今年19年。この間に「よつばホーム、第2よつばホーム」も地域の皆さんの自然な応援を頂きながら運営されてきました。地域の行事などにも参加したり、来て頂いたり、嬉しいことだと思っています。

正直な所“大変だ!”というようなこともあり、その都度体験を生かしても来ました。

今、入居者の皆さんも年齢を重ね、これ迄とはまた違った課題が出てきていますが、元気にすごしています。

\* \* \*

横浜市に、グループホームが誕生したきっかけは、そもそも地域活動ホーム『ふれあいの家』にあったと、記憶していますが、当時まだグループホームの制度はなく、やがて試行事業として、横浜市の事業として補助が打たれるようになりました。

当時まだ中学生だった娘を連れ、アパートを改造して始められていたグループホームにお邪魔して、いろいろ勉強させてい

ただきました。入浴のための器具、障害者に合わせたすわり流し、金銭管理の勉強なども拝見し、心が引き締まる思いでした。

正式に事業と認められるようになるには、大変な努力がおりだったと思います。あのころからグループホーム「よつばホーム」が活動するまで、20年近くの歳月が必要でした。

\* \* \*

平成28年度の国の発表では、グループホームの入居者数は10万人を超え、今年5月の発表では122,673人(前年度より7851人増)が地域のグループホームで暮らしています。

同じ県内に起きた『津久井やまゆり園』の事件はいまも私たちの悲しい記憶となっていますが、グループホームに住まうという暮らしも、本当にその人らしく生き生きと生活していけるように、ただ行政の施作に頼るだけでなく、支援する私たちの不断的努力が必要です。

忘れてはならないのは、ここまでにやる運動と、努力と、熱意があったからこそその数字であり、まだまだ十分ではない支援に地域生活の現場での意識を持ち続けなければならないということでしょうか。

そのいみでは、私たちも、日々是任務ありですね。

(写真は第2よつばホームで)



ご入会・ご継続ありがとうございます。

(敬称略)

## 【正会員】

丸井 直美

## 【賛助会員】

西富 房江

赤瀬 福子

神代 孝子

五十嵐すみ子

飯田 静子

松永 重年

由井 昌子

荒井 洋一

荒井 奈津美

荒井 優奈

入江 勝通

栗原 紀子

下野 正夫

下野 芳子

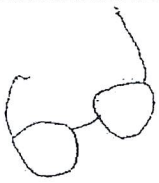
石渡 和美

(2019年9月30現在)

\*お詫び\*

発送時の手違いにより、会費の振込用紙等が封入されていなかった方がありました。

申し訳ございませんでした。



## めがねの声

◇自分の生活は自分で管理しよう...

今年の春3月に、大塚晴康先生がお亡くなりになりました。81歳でした。

私の絵の先生で、ともだちで、障害者の生活の事を教えて下さった大切な方です。

先生は筋ジストロフィーのひとでした。その他にも、糖尿病や白血病やいろいろな病気になっても、また病気が進んでときどき入院しながらも元気になって退院すると、ずっと幼稚園の絵の先生は続けられ、街にもでかけ、普通に生活を続けていました。大きなリクライニングの車いすにのって手が不自由になっても工夫をしながら、絵を描きました。

\* \* \*

私は小さい時から絵が好きでした。母が絵を教えてくれる人を探しているとき、障害者で絵を描く人がいることを知って、たのみにいってくれました。

私が通っていた養護学校は遠く、家から車で45分もかかり、私は中等部になっていました。大塚先生の家は私の家からわりと近く、外の人では一番初めに知り合いになった人でした。

絵を見ていただくと思っていたら、絵だけではなくて、「友子は、障害者の生活を学んだ方がいい」といいました。

まず、電動車いすに乗れるようにしようと、電動車いすの練習をしました。初めは先生の古い車いすに乗って住宅街の道で練習しました。他にも私が相談をすると、いろいろな工夫をしてくれて、電動の歯磨きや、電動の消しゴムをみつけてくださったり、コピー機を使って、葉書を作って手で色を付けて年賀状を作るやり方など、電動の福祉機器のカタログを見せていろいろ教えてくれました。

私の手の指が硬くなりそうだと母が相談して、エレクトーンを教えて下さる先生のお友達を紹介していただきました。それから気功の先生にも出あって... と 友だちが広がっていきました。

\* \* \*



人間を見る時は、頭から足までそして心まで見る。散歩をしたら、いろいろな色がある事、木の葉のみどりも、いろいろなみどりがある事、クルマがあればどこに車がついていてどんな形なのかよく見るんだよといわれました。よく見るということが大切なんだとよくいわれました。

先生は、看護婦さんと暮らしていました。横には、お母様も暮らしていました。私もずっと同じように暮らすことが夢でした。「家族は上で、私は友だちと下でくらすたらいいね」といっていました。

でも私は話も出来ないし、手足も不自由なのでとてもむずかしい。災害や、一人で倒れてしまうこともあるので怖いし、みんなと暮らすのが良いかとおもうのです。それでも今も時々そう思うこともあります。

\* \* \*

先生は、病気が進んでからも、よく外に行って買い物をしたり、きちんと病院やリハビリにも行って、『これが自分の生活なんだからさ...』と言っていました。声あまり出なくなった頃、時々そとで出会ったりしたとき、とてもうれしくて声をかけると、少し笑ってうなずいてくれました。

わたくしは、とても心残りの事があります。

いつも疲れたり、気持ちが晴れない時、大塚先生に会いたいなと思って出かけていたのですが、亡くなるころには「先生の病気が進んでいないか、もしかしたら...」と、ちょっと怖かったり、とても悲しかったりで、なかなか会いにいけませんでした。

亡くなったお知らせは、しばらくたってお手紙が来ました。今も、白楽や新横浜で先生にあうような気がします。

私もこれから、病院の先生やリハの先生と友だちになって、いろいろ見ていただいたり教えていただきながら、「自分の生活は自分で管理するんだよ」と先生みたいに頑張っていきたいです。

\* \* \*

去年の今頃からいろいろな事があって、春からは心がちょっと暗く、後ろ向きになっていました。なんとなく楽な方を見つけてばかりだったけど、活動ホームの旅行に行き、少し元気になりました。

山や森をみて、やっぱり頑張ろうかと思いました。

大原友子



長かった猛暑もようやく一段落し、朝夕過ごしやすくなってきました。秋は色々なイベントもあり楽しい季節ですね。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

9月は入居者にとって大きなイベントでもあります、活動ホームしもだの旅行がありました。

天気にも恵まれとても満喫した1泊2日の旅行となった様です。

### みんなで花火

今年の夏も大変な暑さとなりました。夜になってもなかなか気温が下がらず熱帯夜も続きましたが、入居者のみなさんは大きく体調崩すことなく今年の夏も乗り切れそうです。

そんな夏の夜に花火を楽しみました。なかなか花火をする機会がないですが、この日は綺麗な花火に癒された夜でした。

### たまに行く外でのごはん♪

高村さんはかしの木ホームへ通っています。勢津子さん、花岡さんが旅行に行っている間はグループホームで過ごしました。普段の賑やかな会話は聞けませんが、いつもと違った雰囲気を楽しみました。普段はみんなと一緒に食べるごはんもこの日は外食しました♪

大好きなお寿司を満喫しました。

### ほのぼの祭♪

さわやかな秋風の中、横浜療育医療センターの秋まつり『ほのぼの祭』に行ってきました。

到着して早々に屋台から漂う美味しそうなにお



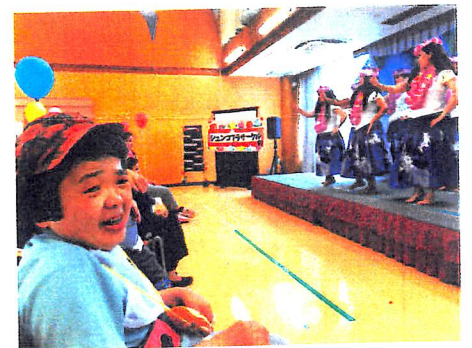
いに食欲が刺激されお腹がなりそうです(^\_^);

あれこれ目移りしつつも、それぞれ好みのごはんを選び、ランチを満喫しました。そこで相席になったかわいい姉妹と楽しく会話しながら舌鼓。

勢津子さんはイベントのスタンプラリーを頑張り、自主製作品などの面白い物も楽しみました。

花岡さんはフラダンスのイベントで一緒に踊ったり歌ったり大満足だったようです。

そして一番のお楽しみは藤田博之さんとの再会です！



午前中にお祭りを楽しん

だ博之さんは、午後にはちょっと眠たそうでしたが、久々に聞く旧友の声にとっても良い表情を浮かべてました。

また、遊びに行くからね！お互い元気に会いましょうね！と博之さんに再会を約束して帰宅の途につきました(^o^)|

